

1. 総評

(1) 年度初めの学校の状況 【学校の現状及び前年度の成果と課題】

<学校の現状>

・素直で元気、真面目に努力する子が多い。学校行事やスポーツ大会など明確な目標に対して一生懸命努力する。元気に礼儀正しく挨拶する子が増えてきた。高学年児童を中心に主体的に活動する姿も見られるようになった。

・職経験の少ない教師が過半数を占める中、指導力向上は重要な課題である。学力定着推進委員や教科専門員の先生方のでいねいな指導を受けて、徐々に指導力が高まって来た。

・保護者や地域の皆様は、学校に理解を示してくださっている。創立50周年記念の本年度、記念式典・祝賀会など様々な記念行事に協力をしてくださり、盛大にお祝いをする事ができた。

<前年度の成果と課題>

○学力の向上

・授業規律が確立し、集中して学習に取り組める児童が増えた。学習の定着を図ることのできない内容を明らかにして効果的に学習を展開してきた。しかし、まだ、学力の向上は十分とは言えず、さらに、充実した指導が必要である。

○心の教育の推進

・人権意識を高める取組が実施できた。6年主導の「朝のあいさつ運動」は、大きな成果をあげ、全校児童のあいさつへの意識の高まりを感じる。たてわり班活動による学校全体の交流が盛んになり、仲良く活動する様子が見られる。自尊感情をどう高めていくかが課題である。

(2) 今年度の重点目標とそれに向けた取組みの概要

重点的な取組事項－1 学力の向上 ～4月の区学力調査問題の各学年の通過率75%を目指す。

- ・授業規律を定着させ、授業に集中できるようにする。
- ・「読む」「書く」活動を充実するように、授業及び家庭学習を推進する。
- ・学力調査の結果について詳細を分析し、つまずきのある児童に対する個別の指導を充実させる。

重点的な取組事項－2 幼保小中の連携 ～連携の推進と円滑な接続とともに欠落のない接続を目指す。

- ・幼保小の連携は、谷在家保育園を中心に、小中の連携は、通常級は皿沼小学校と加賀中学校と、特別支援学級は第八中学校と連携を行う。
- ・教員の交流だけでなく、園児と児童、児童と生徒との交流などを実施する。

重点的な取組事項－3 心の教育の推進 ～自他を尊重する気持ちと態度の育成

- ・丁寧な言葉遣いや気持ちのよい挨拶を推進する。
- ・交流活動を充実する。
- ・伝統文化を大切にする活動を推進する。
- ・地域や社会とのつながりや環境を大切にする活動を推進する。

(3) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

重点的な取組事項－1 学力の向上

- 4月の区学力調査問題の各学年の通過率を1月の再テストでは、83.3%であった。成果は上がってきている。
- ・授業改善に取り組んできた。学力調査の結果について詳細を分析し、つまずきのある児童に対する個別の指導を充実してきた。
- ・授業改善に積極的に取り組んできた。家庭学習をさらに推進し、学校全体の通過率を75%にする。

重点的な取組事項－2 幼保小中の連携

- 連携の推進と円滑な接続を目指す。
- ・幼保小の連携は、谷在家保育園を中心に、小中の連携は、通常級は皿沼小学校と加賀中学校と、特別支援学級は第八中学校と連携を行い、教員の交流だけでなく、園児と児童、児童と生徒との交流などを計画的に実施することができた。特に、創立50周年記念音楽の集いにおいて、加賀中学校と合同演奏会を実施できた点が特筆できる。計画通り実施できたので、次年度は、さらに連携を充実したものにしていく。

重点的な取組事項－3 心の教育の推進

- 「分かった、できた、やりとげた」をスローガンに、自他を尊重する気持ちと態度の育成に取り組んできたがまだ十分とは言えない。さらに、家庭と連携する必要がある。
- ・丁寧な言葉遣いや気持ちのよい挨拶に関しては、次年度も重点的な取り組みとして推進していく必要がある。

(4) 保護者や地域へのメッセージ

○登校時の「あいさつ運動」に積極的にご協力いただき、子どもたちのマナー向上だけでなく、安心・安全な学校づくりにも効果的な取り組みとして、大きな成果をあげています。

○谷在家、押部町会の交通安全運動、PTA「鹿一村祭り」など子どもたちのために様々な活動を行ってくださり、ありがとうございます。特に、今年度は、創立50周年記念行事に対する多大なるご協力をいただき、心より感謝申し上げます。50周年ということで、地域や学校の歴史、同窓会との交流等の機会を設けることができ、地域との連携をさらに深めることができたと考えております。

○運動会や展覧会、持久走大会などには、大変多くの方の参観をいただき、感謝申し上げます。学校公開や授業参観に関しても、積極的にご参加いただき、子どもたちの日常の様子についてもより多くの方のご覧いただきたいと思います。

2. 平成27年度の重点的な取組事項

<達成度 ◎:十分に達成 ○:おおむね達成 △:達成せず ●:課題が残る>

重点的な取組事項－1 基礎学力の定着

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
4月の区学力調査の通過率アップする。	75%	83.3% ※実際には4月の結果で評価	基礎学力定着に向けた取り組みが成果を上げている。今後も継続して取り組みたい。	○

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
パワーアップタイムの充実	・年間計画に基づいて、学年で意図的計画的な指導の実施、年間110回以上	・学力調査分析を基に学年全体の課題となる内容を吟味し、段階的に定着を図っていく。	・春先に課題分析を行い、パワーアップタイムの指導に活かした。	・パワーアップタイムの時間に、読書活動や英語活動にも盛り込んでいく。	○
放課後補充指導・補習指導の充実	・45分×年間100回以上	・「東京ベーシックドリル」「習熟度プリント」などを教材に活用する。 ・全校体制で指導に取り組む。	・どの学年も100回以上実施。 ・補充補習以外に、宿題忘れの児童の学習の機会としても活用した。	・「東京ベーシックドリル」を年間を見通して効果的に活用していきたい。	○
プレジデントタイムの実施	・2、3年の児童の基礎計算の定着に課題がある対象に指導、年間100回以上	・毎日、給食準備中に校長が指導	・ほぼ毎日実施。副校長と学力定着推進委員も指導に参加した。	・さらに、意図的計画的に実施していきたい。	◎

重点的な取組事項－2 幼保小中の連携

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
連携の推進を通して、円滑な接続とともに、欠落のない接続を目指す。	・1月の調査で、100%の教員から連携事業へのよさを認める回答。	・連携の必要性を感じ、昨年度より、一步連携が前進したことが感じられる。	・幼保小及び小中の連携活動は、昨年度に比べ計画的に実施することができ、授業研究を深めることができた。授業力を向上視点からの連携をさらに深めていきたい。	◎

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
中学校教員との交流	・小中交流会、準備委員会を各10回の実施 ・校長間の連絡を密に取る。月1回	・連携事業10回。各教科の研究授業実施、各校1回ずつ。 ・月一回の顔合わせ。	・計画通り実施することができた。	・さらに、連携を深めていく。	◎
保育士や学童指導員との交流	・全教員による保育園見学会の実施 ・年間3回以上の保育園児と低学年の交流事業	・全教員による見学会実施。 ・授業体験、公開授業、図書室見学、給食体験、展覧会等へ	・予定通り実施することができた。	・就学前の情報交換をさらに密に行うようにしていく。	◎

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
	・保育園の保護者会参加と年長児への指導	の招待。 ・1年生担任による谷在家保育園での鉛筆の持ち方指導。校長の保護者説明会参加。			
教員と児童、生徒との交流	・出前授業：3回以上 ・夏季補充教室：10日間 ・部活動、授業体験：1回 ・中学校説明会：1回 ・あいさつ運動実施	・出前授業：算数、体育、図工等 ・夏季補充教室：指名補習 ・部活動、授業体験：学年末考査中 ・中学校説明会：生徒会が来校 ・中学生とのあいさつ運動の実施	・計画通り実施することができ、交流を深めることができた。	・今後も同様に交流を展開していく。	○

重点的な取組事項－3 心の教育の推進

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
自他を尊重する気持ちと態度の育成	児童アンケート結果の向上 ・自己肯定感に関する項目85%以上	児童アンケート結果の向上 ・自己肯定感に関する項目62.8%	児童の自主的な活動を重視し、「分かる、できる、やりとげる」をスローガンに指導をし、自己肯定感の育成を意識して教育活動を行ってきた。家庭との連携を図りながらさらに、意識的に教育活動する必要がある。	△

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
丁寧な言葉遣い、気持ちのよい挨拶の推進	・児童アンケートで、あいさつ・言葉遣いに関する項目80%以上 ・学校関係者評価で、あいさつ言葉遣いに関する項目3%向上	・挨拶キャンペーンを毎年実施する。 ・学校便り、保護者会、ホームページで保護者地域に啓発活動を行う。 ・PTA、地域と連携したあいさつ運動の実施	・児童アンケート結果 あいさつ 80.8% 言葉遣い 70.3% ・PTA、地域と連携した挨拶運動の実施	・さわやかなあいさつが増えたと感じている。しかし、目標値には届かなかった。さらに、家庭と連携していく。	△
交流活動の充実	・なかよし学級と普通学級の交流活動を実施する。 ・高野小特別支援学級と交流活動	・なかよし学級の児童と普通学級で授業や行事で交流を行う。 ・高野小学校と連携し、スポーツ、歌、ゲ	・なかよし学級の児童と普通学級で授業や行事で交流を実施した。 ・高野小学校と連携し	・交流の仕方について工夫して、心と心の交流を目指す。	○

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
	を年2回実施する。	一ム活動の交流を行う。	交流を行う活動を計画的に実施することができた。		
伝統文化を大切にす活動の推進	・俳句コンクールに投稿 ;校内俳句コンクール年間2回実施	・一茶まつりなどの俳句コンクールに積極的に投稿する。 ・各学級で計画的に句会を実施する。	・子供新聞に児童の俳句が掲載された。 ・予定通り実施し、PTA会長賞も設立した。	・次年度は、さらに本校の特色になるように取り組んでいく。	○
地域や社会とのつながりや環境を大切にする活動の推進	・各学年において環境教育を実施(各1回以上) ・児童会等で環境活動を実施(1回以上) ・地域や社会に貢献する活動実施(3回)	・各学年における環境教育に関する学習内容を明らかにして、意識的に環境教育を実施する。 ・代表委員会、環境委員会等での環境活動を実施する ・社会貢献活動を実施する	・予定通り実施することができた。環境委員会による環境活動を実施した。 ・鋸南自然教室では、環境省と連携して授業実践し、教育フォーラムも実施することができた。 ・「なかまプロジェクト」「ごみゼロデー」は実施したが、「服のチカラプロジェクト」が実施できなかった。	・昨年度より、児童の自主的な活動になり、地域や社会とのつながりについて意識する教育活動になった。	○

3. 学校活動全般について

児童の学力向上の取組として、全職員で、授業力向上に取り組み、朝のパワーアップタイムや放課後補習、土曜日の鹿一タイムを実施してきた。しかし、つまずきが解消されていない児童もまだ見られる。さらに、授業力向上や補修補充に力を入れていく。

創立50周年記念行事に向けて、児童の自主的主体的な活動を重視してきた。その成果か、明るく元気に仲良く過ごす児童がたくさん見られるようになった。

4年～6年の有志児童で構成されている「鹿一金管バンド」は、全校の1割以上の児童が参加し、年間を通して朝練習を行い、鹿浜地区合同音楽会や足立区研究演奏会で迫力ある素晴らしい発表をすることができた。

学校・家庭・地域のボランティアの方との連携で、「野菜くずリサイクル活動」を行い、持続可能な社会づくりへの取り組みをすることができた。これは、本校の特色であり、他校や他の地域に誇れる取り組みだと考えている。